

東京 11 発走 15:30

Main race table with columns for race number (1-16), horse name, jockey, trainer, and various performance metrics.

【ポイント】叫いたアドマイヤは適性上位だが、②③着が計18回の連下分。フィールはコキョウ実績十分。昇級でもジョパスタートデビューは、ジョウ馬で素質は重賞級だ。勢いが光る

ワイド、タールは千六克服な圈内で、ダンロ、ゴールド、キョウウ、ロイヤルは仕上がってれば、トウショウは距離が短くて久々、グレイブ

①エアハリファは58キロも押しこめて、千六は好相性なので、重賞でも上位争いになるはず。②カチユウは、入着級ルも合っている。牡馬相手の重賞。スタート地点の芝も鍵だが、かずに走れば、流れに乗って先行できれば、③安田降師は本気にならないまま。距離を詰めてプリンカーも外して見るので、気を抜かずには走れない。

Table with detailed horse statistics, including names like 武蔵野ステークス (GIII), 大沼大賞, and 大和堂大賞, along with their respective jockeys and trainers.

第19回 武蔵野ステークス (GIII) (東京中日スポーティング) 5歳以上 オープン(調教別定)

①ワイドバックハ (上位争い) ②庄野師は前2頭が引張って来て展開も向いたが、今回は芝スタートが鍵。せめて中団あたりにはつけないが、

本紙の見解 実力馬の大半が先週のみやこSに流れ、大幅に相手関係が楽になったエアハリファ。東京ダート千六は3戦2勝2着1回。前走のアハルテグSでは実力馬ベストウォーリアを競り負かしており、この組み合わせなら一枚上。仕上がりは上々だし、鉄砲駆けにも実績があり中心に期待。充実著しいロイヤルクレストが相手。 [波乱含み]

③安田降師は前2頭が引張って来て展開も向いたが、今回は芝スタートが鍵。せめて中団あたりにはつけないが、

相本 複連 一戦ごとに地力強化のワイドバックハは、流れはさして関係なしに毎回34秒、35秒台の末脚爆発。千八千九でも連対記録がある。いままら追走の楽な千六はむしろ有利。

競馬人情 吉川良

おれはじいさんなので、長いつきあいのある競馬友だちは、たいがいがじいさんである。アハハ、あたりまえだね。

そういう友だちが死んじやった、と知らされる。ただ運がいいのか、まだこの世にいるおれは、黒いネクタイをして、手を合わせに行く。

坊さんのお経を聞きながら、額ぶちにおさまっちゃまった写真の友だちに目をやったりし、ミスターシービーだの、シンボリルドルフだの、オグリキャップだの、タマモク羅斯だの、ディープインパクトだのと言いつつ、「アタラねえもんだなあ、馬券って奴」



きょうは東京で計7R。京都でもデイリー杯2歳Sなど計7R。2歳戦が増えてきた。

2歳種牡馬ランキングはやっぱり今年も、11月に入って追い込むディープインパクトが先週を終え(12日現在)全国ランキングトップに躍り出た。

今年も首位を守ると、10年以降へ①①①①①。5年連続のトップ君臨となる。

秋が深まるのを待っていたディープ産駒は、京都⑤R(6面)の新馬芝千八には、評判のラヴイダフェリス(3代母ダイナカール)、エ女王杯を3歳時の04年から⑤①②③着と毎年快走したスイフトウシヨウの産駒レガッタなど、人気馬ばかり4頭が出走してくる。

東京⑧Rにも評判のエイムハ(母は紫苑Sのサンドリオン)など2頭が出走する。

東京⑧Rの新馬はタートの千四。⑧アジアンテーストがムア騎手(先週いきなり)221

なんぞと嘆いて、えへっと笑って、長いこと競馬とつきあってきたもんよなあ、そんなことをおれは思うのだ。

それでね、通夜の酒の席で、「父がいろいろと……」

など息子さんに挨拶されることがあるのだが、近ごろ、あんなに父さんが競馬が好きだったのに、息子さんは競馬にまったく無関心という例が、おれのまわりではやたらに多い。

そのことがおれにはとても不思議で口にする、

「それが普通なんじゃないの」と言う人がほとんど。あなた、どう思いますか?

武蔵野Sはレッドアルヴィス本命。エアハリファ、ワイドパッハへ馬単。デイリー杯2歳Sはアッシュユゴールドからナヴィオンへの馬単1点。

9)を配して出走する。

父は07年、ハリウッドパークのAW8.5の2歳GIを勝ったイントゥミスターフ(05)。

その父ハリランズホリディもさらにその父ハリランも、そしてその父ストームキャットも、みんな米のタートGIを早い時期に勝っている。

3歳アジアエキスプレス(ここまで7戦4勝)と同じ手塚厩舎、同オナーである。

東京⑧Rブレイクエースは、東京⑧Rキュリオステイの1つ下の半弟。姉キュリオスこそ新馬勝ちを逸したが、その全兄エネアド(5歳)は新馬①着。その上になる⑧ブレイクランアウトも新馬①着だった。

注目のデイリー杯2歳S。今年の2歳重賞はここまで計8R行われ、④③⑤⑤④④⑨⑩番人気馬が勝っている。

たまらない世代である。デイリー杯はさすがに、ハーツクライのナヴィオンか、オルフェ兄弟のアッシュユゴールドかと思えるが、果たして人気馬を信じて大丈夫だろうか。

(柏木)